

平成29年5月1日(月)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



だれもが笑顔になる学校 「自ら学び、表現する子」

校長 上田 祥市

風薫る五月、桜の花びらが舞い散った後、爽やかな風が光を浴びて瑞々しく広がる若葉の香りを運んでくれます。学校の周りは、赤紫やピンク色のツツジが少しずつ花を咲かせ、校歌にもある「街を飾るつつじ」の季節へと移っていきます。

先日の全校朝会で、学校に咲いている花をスライドショーで紹介しました。杉の子学級の前のツツジは、周りにあるツツジと違いヒラドツツジという少し大きめの白や薄ピンクの種類だということ。タンポポは西洋タンポポで、日本在来種の関東タンポポとは違うということ、花壇に咲いているパンジーや菜の花は地域の方が植えてくださっていること、学校周りの街路樹のところに植えてある色とりどりの花々は、地域の桐谷さんをはじめとする花の会と環境委員会の子供たちが植えていること、そして木々の若芽を食べによくヒヨドリが飛んでくることなど、花や木々、そして虫や鳥などからつつじが丘小学校の「春」から「初夏」へと向かう季節を感じてほしいと話しました。

朝会のあったその日の休み時間、校長室のドアをトントンとたたき音がします。「どうぞ」と声をかけると、一人の2年生の女の子が私に手を差し出しました。手には、タンポポが一輪。「これ、関東タンポポだと思うんだけど…」その後、5年生の男の子たちが、にこにこ顔で「校長先生、関東タンポポ、見つけました。」と持ってきてくれました。

翌日の朝には、3年生の男の子たちが「校長先生、美堀で関東タンポポ見つけました。」と興奮気味に違いの分かる総苞の部分を見せてくれ、また校長室のドアをたたき音が…今度は1年生の

男の子が、白い花びらの小さな花をもっています。「これ、あげる。」もらった花が、ハルジオンかヒメジオンか私には自信がありませんでした。「ありがとう。何の花か調べておくれ。」そう言ってお礼を言いました。



関東タンポポと持ってきた花は残念ながらタンポポに似た花のことが多いのですが、子供たちが朝会での話を聞いて、すぐに興味をもち、行動し、そしてまた私に返してくれる。校長として、こんなに嬉しいことはありません。子供たちは、純粹です。興味をもつと自分からすすんで行動します。主体的な学びとは、こうした学び方なのだと思います。「不思議だ」と思ったことを、自分で確かめ、さらに「もっと知りたい」と知的好奇心を高めて、深い学びへとつながっていく。新学習指導要領では、アクティブ・ラーニングという言葉で、「主体的・対話的深い学び」をすすめることを謳っています。

さらに、本校学校目標のひとつ『自ら学び、表現する子』にしていくためには、与えられたプリントをこなす学習ではなく、自分から必要なプリントを選び、チャレンジする学習へ、「不思議だな」「やってみみたい」から「もっと知りたい」「もっとわかりたい」とつながる深い学びへのきっかけをつくる授業へ、一方通行の伝達ではなく、言葉のキャッチボールによる思考の深まりのコミュニケーションへ、主体的な学びの試みを実践していく必要があります。

すすんで学ぶ子供たちの眼は、キラキラと輝きます。子供たちの心を動かす働きかけを、学校でもご家庭でも意識して行っていきたいですね。